

## 執筆者紹介

(執筆順, \*は編者)

### \*大園 誠 (おおぞの まこと)

01

1971年生まれ。名古屋大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。現在、名古屋大学法学研究科大学院研究生、大同大学・名古屋外国語大学・南山大学・相山女学園大学非常勤講師、同志社大学人文科学研究所嘱託研究員（2015年度）。「丸山眞男と「平和の条件」—戦後日本における「平和主義」再考」（南原繁研究会編『南原繁と平和』EDITEX, 2015年）, 「南原繁と丸山眞男—理想主義と現実主義のあいだ」（南原繁研究会編『南原繁と国際政治』EDITEX, 2014年）, 「丸山眞男における「他者感覚」と「主体像」—福沢諭吉論を手がかりとして」（田村哲樹・堀江孝司編『模索する政治—代表制民主主義と福祉国家のゆくえ』ナカニシヤ出版, 2011年）など。

### 小野寺研太 (おのでら けんた)

02

1982年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。現在、東京大学大学院総合文化研究科学術研究員。『戦後日本の社会思想史—近代化と「市民社会」の変遷』（以文社, 2015年）, 「日本における市民社会論の生成—戦時・戦後のアダム・スミス受容とその思想的射程」（『社会思想史研究』第34号）, 「内田義彦の市民社会論」（『相関社会科学』第19号）など。

### \*大井 赤亥 (おおい あかい)

03. Column①

1980年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。現在、日本学術振興会特別研究員（PD）、東京大学・昭和女子大学非常勤講師。「H・ラスキの見た1930年代アメリカのニューディール—「マルクス主義者」によるリーダーシップ論」（『政治思想研究』第15号）, 「ラスキにおける「二つの全体主義」認識の変容と自由民主政への批判的省察」（『年報政治学 2012-II』木鐸社, 2012年）, 「福田憲一における戦後東アジアと内発的「国民形成」の問題」（『相関社会科学』第20号）など。

### 田澤 晴子 (たざわ はるこ)

04

1966年生まれ。名古屋大学大学院環境学研究科博士課程修了。博士（法学）。現在、岐阜大学教育学部准教授。『吉野作造—一人世に逆境はない』（ミネルヴァ書房, 2006年）, 「柳田国男における「固有信仰」と「世界民俗学」—キリスト教との関連から」（『年報近現代史研究』4号）, 「郷土研究」とアカデミズム史学」（『年報近現代史研

究』7号)など。

松井 隆志 (まつい たかし)

05

1976年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学。現在、武蔵大学社会学部准教授。「鶴見プラグマティズムの一つの帰結」(『現代思想』2015年7月号)、「運動のつくり方の知恵—平連・鶴見俊輔・プラグマティズム」(『現代思想』2014年11月号)、「対抗暴力批判の来歴」(千田有紀編『上野千鶴子に挑む』勁草書房、2011年)、「60年安保闘争とは何だったのか」(岩崎稔ほか編『戦後日本スタディーズ 2—「60・70」年代』紀伊國屋書店、2009年)など。

山之城有美 (やまのじょう ゆみ)

06

1976年生まれ。中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了。現在、日本女子大学大学院人間社会研究科博士後期課程在籍中。「社会的自我像をめぐる普遍性/特殊性の考察—橋川文三が語る日本ロマン派の「煩悶」の論理」(『人間社会研究科紀要』第21号)、「戦後日本における橋川文三の「1930年代像」—「日本浪漫派批判序説」を素材として」(『人間社会研究科紀要』第20号)など。

新倉 貴仁 (にいくら たかひと)

07

1978年生まれ。東京大学大学院情報学環・学際情報学府博士課程修了。博士(社会情報学)。現在、成城大学文芸学部専任講師。「存在拘束性のナショナリズム—丸山眞男と知識社会学」(『相関社会科学』第18号)、「戦後日本の知識人と語りの構造—藤田省三におけるレトリックと読むことについて」(『年報社会学論集』第24号)、「中間の思考—文化社会学の学説史的考察」(吉見俊哉編『文化社会学の条件—20世紀日本における知識人と大衆』日本図書センター、2014年)など。

徳田 匡 (とくだ まさし)

Column②

1979年生まれ。現在、東京大学大学院総合文化研究科博士課程在籍中、和光大学非常勤講師。「「反復帰・反国家」の思想を読みなおす」(藤澤健一編『沖繩・問いを立てる 6 反復帰と反国家』社会評論社、2008年)、「兵士たちの武装「放棄」—反戦兵士たちの沖繩」(田仲康博編『占領者のまなざし 沖繩/日本/米国の戦後』せりか書房、2013年)、「〈占領〉とカラー写真 東松照明と島々」(『現代思想』2013年5月臨時増刊号)など。

丹波 博紀 (たんば ひろき)

08

1979年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学。現在、和光大学・関東学院大学非常勤講師。『水俣五〇年 ひろがる「水俣」の思い』(最首悟との

共編, 作品社, 2007年), 「『死民』の地政学—谷川雁と石牟礼道子の「手紙」から読み解けるもの」(『情況』2008年8月号), 「イバン・イリイチの水俣—それで患者は救われるのか」(『情況』2010年8・9月号), 「天とあま—あめ—うみの「せかい」」(『季刊 魂うつれ』第47号) など。

\*和田 悠(わだ ゆう)

09

1976年生まれ。慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。現在、立教大学文学部准教授。「社会科討論授業の可能性についての断章—「シティズンシップ教育」へのヒント」(『現代思想』2015年4月号), 「香里ヶ丘文化会議による地域社会づくり—1960年代前半の団地における「市民」と市民運動」(『社会文化研究』15号), 「松田道雄と集団保育の〈発見〉—1960年代の保育運動のなかで」(大門正克ほか編『高度成長の時代3 成長と冷戦への問い』大月書店, 2011年) など。

\*神子島 健(かごしま たけし)

10. Column③

1978年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。博士(学術)。現在、成城大学ほか非常勤講師。『戦場へ征く、戦場から還る』(新耀社, 2012年), 「当事者なき後の戦後責任論—戦争体験と戦争責任の交錯をめぐって」(『世界』2014年9月号), 「二重の不在—戦後と3・11以後の死者について」(『批評研究』第1号) など。

片上平二郎(かたかみ へいじろう)

11

1975年生まれ。立教大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(比較文学)。現在、立教大学兼任講師、明星大学非常勤講師。「断片化された世界へのまなざしと弁証法」(『社会学評論』262号), 「アドルノの「伝統」概念—文化的保守主義は、批判理論に接続可能か?」(『社会学評論』235号), 「転回点としての「宮沢賢治」—1980年代と見田宗介」(『現代社会理論研究』9号) など。

池田 雄一(いけだ ゆういち)

12

1969年生まれ。法政大学文学部卒業。現在、東北芸術工科大学芸術学部准教授。『メガクリティック—ジャンルの闘争としての文学』(文藝春秋, 2011年), 『カントの哲学—シニシズムを超えて』(河出書房新社, 2006年) など。

山本 興正(やまもと こうしょう)

Column④

1981年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。「梶村秀樹における民族的責任の位置—ナショナリズムをめぐる議論を中心に」(『コリアン・スタディーズ』2号), 「日本社会から消去、排除される人々—最近の在日外国人管理

## 執筆者紹介

政策の変化をめぐる」(『情況』2009年6月号), 共訳書に金廣烈ほか著『帝国日本の再編と二つの「在日」一戦前, 戦後における在日朝鮮人と沖縄人』(明石書店, 2010年)など。